

統合国際深海掘削計画（IODP）会議報告書

提出年月日： 平成 19 年 8 月 2 日

(ふりがな) やぐちよしかず

氏名： 矢口良一

所属（職名）： 三井石油開発株式会社（理事・HSE室長）

会議名	第 8 回 Site Survey Panel (SSP) 会議
期間	平成 19 年 7 月 16 日 ~ 平成 19 年 7 月 22 日（移動を含む）
用務地	英国・スコットランド・エジンバラ市（英国地質調査所・Murchison House）
目的	IODP 掘削プロポーザルの科学目的に係るサイトサーベイデータに基づく評価
会議内容及び報告事項（合計 10 名）	
■ 日本からの出席者	
《SSP メンバー》 金松敏也(海洋研究開発機構)、白井正明(東大海洋研)、田中明子(産総研)、日野亮太(東北大学)、松田博貴(熊本大学)、三浦誠一(海洋研究開発機構)、矢口良一(三井石油開発)	
《IODP Liaisons》 Barry Zelt(IODP-MI)、岡野正(海洋研究開発機構)、棚橋学(産総研)	
■ 2007 年 7 月 18 日（水）	
1) 一般的事項の紹介・説明【9:00~ 9:55】	
(1)出席者の自己紹介（出席者合計 28 名）	
(2)ロジスティックスの説明：C. Graham	
(3)前回の SSP 議事録の承認：D. Sawyer	
(4)今回の SSP 日程・協議事項の説明：D. Sawyer	
(5)SSP の任務・制約・評価方法の確認等：D. Sawyer。	
2) IODP 傘下の各委員会（Panel）からの活動状況の報告【10:00~12:30】	
(1)IODP-MI (IODP-Management International)：B. Zelt	
・ 2007 年 4 月 1 日現在のプロポーザル総数：33（うち新規案件は 14）	
《研究課題別内訳》 Deep biosphere and subseafloor ocean：4 / Environment change processes and effects：12 / Solid earth cycles and geodynamics：17	
(2)SPC (Science Planning Committee)：J. Behrmann	
(3)SSEP (Science Steering and Evaluation Panel)：D. Sawyer	
(4)EPSP (Environmental Protection and Safety Panel)：棚橋学	
(5)SSDB (Site Survey Data Bank)：J. Wetherford	
(6)CDEX (Center for Deep Earth Exploration)：岡野正	
・地球深部探査船「ちきゅう」の研究航海予定：南海トラフ地震発生帯掘削計画 (NantroSeiz)	
Stage -1：2007 年 9 月~2008 年 2 月	
Stage -2 (ライザー掘削)：2008 年 10 月~2009 年 2 月	
(7)USIO (U.S. Implementing Organization)：J. Miller	
(8)ESO (ECORD Science Operator)：C. Graham	

- 3) ANDRIL (Antarctic Geological Drilling)の現況報告 : F. Pack 【13:10~14:00】
- ・コンソーシアムのメンバー : ドイツ、イタリア、ニュージーランド、米国、カナダ、英国
 - ・科学目的 : Recovering proximal records of ice sheet and climate history to complete the global climate puzzle
 - ・南極・ロス海の McMurdo Sound Project に 5 掘削サイトが提案 2007 年中に掘削予定。
- 4) 各掘削プロポーザルの評価担当者 (Watchdog) によるレビュー 【14:00~18:00】
- 1つのプロポーザルには3名の評価担当者が割り当てられるが、今回は、以下のように3名の役割分担が定められた。
- ・Presenter : 会議にてプロポーザルの PowerPoint によるプレゼンテーション
 - ・Scriber : プロポーザルの SSP レビューのドラフトの作成および完成
 - ・Reader : プロポーザルおよび関連データのチェック

■ 2007年7月19日(木)

- 1) 各掘削プロポーザルの評価担当者によるレビュー (続き) 【9:00~11:00】
- 2) 掘削プロポーザルの評価結果の報告 【11:00~18:00】

Proposal	Short Title	Lead Proponent	Watchdog		
			Presenter	Scribe	Reader
505-Full5	Mariana Convergent Margin	Fryer	Sawyer	Miura	Gaedicke
537A-Full5	Costa Rica Seismogenesis Project Phase A	Vannucchi	Miura	L-Andersen	Sawyer
603-Add2	Nan Tro SEIZE Overview	McNeill	Shirai	Hopper	Miura
605-Full2	Asian Monsoon	Tada	L-Anderson	Lee	Mallinson
612-Full3	Geodynamo	Yamazaki	Lee	Sawyer	Hino
623-Full4	Ontong Java Plateau	Neal	Hopper	Locker	Li
661-Full2	Newfoundland Sediment Drifts	Norris	Doyle	Yaguchi	Lericolais
662-Full3	South Pacific Gyre Microbiology	D'Hondt	Locker	Hino	Shirai
686-Full	Southern Alaska Margin 1: Climate-Tectonics	Jaeger	Matsuda	Li	Locker
704-Full	Sumatra Seismogenic Zone	Goldfinger	Hino	Yaguchi	Sawyer
A001	Coring on Coulman High and in the Southeastern Ross Sea Antarctica	Luyendyk	Gaedicke	Matsuda	Locker
707-Full2	Sagami Bay Seismic Monitoring	Kobayashi	Gulick	Tanaka	Searle
722-Full	Sagami Bay Tectonics and Paleoseismology	Yamamoto	Tanaka	Searle	Gulick
723-Full	Sagami Bay Kanto Asperity Network	Kobayashi	Searle	Gulick	Tanaka

■ 2007年7月20日(金)

- 1) 掘削プロポーザルの評価結果の報告 (続き) 【9:00~11:00】

Proposal	Short Title	Lead Proponent	Watchdog		
			Presenter	Scrib	Reader
712-APL	Sediment-CORK Trial Installation	Davis	Li	Kanamatsu	Hopper
725-Full	NE Atlantic Volcanic Rifted Margin	Huismans	Yaguchi	Gaedicke	Lee
715-Pre	Mediterranean Landslides	Camerlenghi	Lericolais	Shirai	Kanamatsu
716-Full	Hawaiian Drowned Reefs	Webster	Mallinson	Doyle	L-Anderson
724-Full	Gulf of Aden Faunal Evolution	deMenocal	Kanamatsu	Mallinson	Matsuda

2) その他の協議事項【11:00～13:00】

(1)データバンクの地震探査データ：SEG-Y データと PDF ファイル

- ・当面は、個々のプロポーザルの内容に応じて使い分けることにする。

(2)SSP 会議開催頻度

- ・会議は年に 1 回開催し、他の 1 回は E-mail のやり取りによるレビュー代替。
- ・テレビ会議：E-mail のやり取りでは不十分、ただし時差があり非現実的。
- ・プロポーザルの提案者への対応の観点からは、6 カ月毎の開催が良い。
- ・Liaison としての参加者が多いかもしれないが、参加する価値あり。
- ・評価方法をチェックボックス式にしたら良い。

以上、多くの意見が出たが、本件は継続して議論することになった。

※ちなみに、SSEP は年 1 回の会議に加え、2 回の小会議を開催し、E-mail はデータ・ロード等にものみ使用、顔を合わせた会議を重視。

(3)次回 SSP 開催地と時期

- ・2008 年 1 月 21 日の週（23 日～25 日）に東京ないし横浜
日本のほか、韓国、中国、米国（サンディエゴ）等が候補に挙げられたが、最終的には、日本開催の支持者が多く日本での開催（上記）で合意された。

(4)今後予定されている IODP 関係会議の Liaison としての出席予定者

- ・SPC：米国・サンタクルツ【2007 年 8 月 27 日～30 日】／D. Sawyer
- ・SSEP：フランス・サレー【2007 年 11 月 12 日～15 日】／G. Lericolais

(5)メンバーの交替

- ・R. Searle (英国ダーラム大学)、J. Corthay (ExxonMobil)、E. Doyle が退任。

備 考

事務局又はJ-DESCへのご要望・コメント等

次回（第 9 回）の SSP が 2008 年 1 月下旬に日本で開催されることになりましたので、その受け入れ準備計画・体制等のご検討をお願いしたいと思います。